

殺菌剤

日曹

ムッシュボルドー[®]

DF

登録番号

第23169号、第24417号

性 状

暗灰色～暗緑色 水和性細粒、微粒及び粗粉

有効期限

4年

毒 性

普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）

包 装

1kg×10 袋、5kg×2 袋（地域限定）

殺菌剤分類

M1

有効成分

塩基性硫酸銅 71.2%（銅として 40.0%）

種 類 名

銅水和剤

日曹の農薬

- 特 長
- 1. 希釈倍数が 500 ～ 1,000 倍で通常の殺菌剤同様の保管・輸送・希釈作業が可能です。
 - 2. 有効成分である銅は、糸状菌・細菌を含む幅広い病原菌に対して抗菌力を示します。
 - 3. 既存のボルドー剤と同様に保護効果があり、殺菌剤耐性菌対策としても有効です。
 - 4. 製剤の最適化等により安定した効力を示します。
 - 5. 有機 JAS 適合農薬として使用できます。



製品ページはこちら

■適用病害虫名及び使用方法 (2025 年 7 月 9 日現在)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	銅を含む 農薬の 総使用回数	使用方法
かんきつ	幹腐病(ゆず)	100	0.3～0.5 L/樹	—	—	—	散布
		500～ 1,000					
	かいよう病						
	そうか病						
	黒点病		500				
	カタツムリ類						
	ナメクジ類						
びわ	がんしゅ病	200～700 L/10a	—				
小粒核果類 (すももを除く)	かいよう病		葉芽発芽 前まで				
もも	せん孔細菌病		開花前 まで				
	縮葉病						
ネクタリン	せん孔細菌病		葉芽発芽 前まで				
すもも	黒斑病						
	かいよう病						
	ふくろみ病						
おうとう	褐色せん孔病		収穫後				
ぶどう	べと病		500	—			
	さび病						

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	銅を含む 農薬の 総使用回数	使用方法
いちじく	疫病	1,000	200～700 L/10a	—	—	—	散布
キウイフルーツ	かいよう病						
マンゴー	軸腐病	500	100～300 L/10a				
こんにゃく	腐敗病						
ばれいしょ	疫病	500～ 1,000					
	軟腐病						
しょうが	白星病	500					
きゅうり	斑点細菌病						
トマト ミニトマト	疫病						
ブロッコリー	花蕾腐敗病						
はくさい	軟腐病						
アスパラガス	茎枯病						
	斑点病						
茶	赤焼病	500～ 1,000	200～400 L/10a	摘採7日 前まで			
	炭疽病						
	もち病						
	網もち病						

⚠ 効果・薬害などの注意

- 所要量を所定量の水にうすめ、よくかきまぜてから散布してください。
- 石灰硫黄合剤等アルカリ性薬剤との混用はさけてください。
- かんきつに使用する場合、発芽期以降は薬害（スターメラノーズ）を生じるおそれがあるので、薬害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用してください。特に果実の着生期の散布では厳守してください。樹勢の弱い樹や異常気温が予想される場合は使用をさけてください。
- かんきつの黒点病に使用する場合、多発生が見込まれる場合には、十分な効果が得られないおそれがあります。
- ゆずの幹腐病防除に 100 倍で使用する場合には、枝幹の病斑部に処理することとし、果実に薬液がかからないように注意してください。
- ぶどうに使用する場合、果房に薬害を生じるおそれがあるので、袋かけ前には使用しないでください。
また、無袋栽培では収穫まで使用をさけてください。
袋かけ後あるいは無袋栽培の収穫後は葉に薬害を生じるおそれがあるので、銅に弱い品種や薬害の出やすい時期に使用する場合は、薬害発生軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
- ももに使用する場合、収穫終了後の使用は薬害（落葉）を生じるおそれがあるので、薬害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
- すももに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、銅に弱い品種や薬害の出やすい時期に使用する場合は事前に確認し十分注意してください。
- おうとう、いちじくに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、必ず炭酸カルシウム水和剤を加用してください。

10. はくさい、ブロッコリーに使用する場合、薬害を生じやすいので次の事項に注意してください。
 - (1) 薬害軽減のため、炭酸カルシウム水和剤を必ず加用してください。
 - (2) 症状が強くなる高温時の散布はさけてください。
 - (3) 収穫間際の散布は汚れを生じるため留意してください。
11. ナメクジ類、カタツムリ類には、食害防止を目的として使用してください。
12. キウイフルーツに使用する場合、薬害を生じやすいので次の事項に注意してください。
 - (1) 薬害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
 - (2) 黄色系、赤色系の品種では葉及び果実に薬害を生じる場合があるので、生育期には使用しないでください。
13. しょうがに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、薬害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
14. アスパラガスに使用する場合、高温多湿時には薬害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
15. 本剤は無機銅剤であるので、あぶらな科野菜、いんげん、稲、レタスには薬害を生じるおそれがあります。これらの作物が周辺にある場合は飛散しないように注意してください。
16. 蚕に対して毒性があるので、桑にはかからないように注意して散布してください。
17. 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理してください。
18. 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
19. 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。



安全使用上の注意



20. 誤飲、誤食などのないよう注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
21. 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
22. 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。

● 水産動植物への影響

水産動植物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。

● 保管上の注意

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

-
- 使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には、使用しないでください。
 - 小児の手の届く所には、置かないでください。●空容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理してください。
-